

---

# 紙の刃は鋼をも制す

秋缶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紙の刃は鋼をも制す

### 【Nコード】

N7652G

### 【作者名】

秋缶

### 【あらすじ】

ある日少年「響」きやうは特別な能力に目覚める。つてベタな物語。

## 序章：異変

「トイレの紙が切れたからコンビニ行くか」

と、少年『杉田 響』<sup>（響）</sup>はスーパーに行きトイレットペーパーを手  
にレジに並んだそのとき

「うわあああ！金をだせえええ！」

強盗だ。その強盗の手には銃が握られていた。男は店員に銃を向  
け金を要求した。店員はその指示に従いレジから札束を出した、と  
思った。が店員は非常ボタンを押していた。

「押したな…押したなあああ！」

強盗は手に握った銃の引き金を引いた。静まり返った店内に銃声  
が響き渡る。店員は血を流しその場に倒れこんだ。

店内にいた他の客は悲鳴を上げ携帯電話で連絡を取ろうとしてい  
るのか。しかし、強盗は銃でその客を撃ちぬいた。

「こっ今度はっお前の！お前の番だ！」

銃が自分の方に向いた。撃たれるのか。死ぬのか。怖い。死にた  
くない。

気付くと俺は強盗にトイレットペーパーを投げていた。無様だな。  
あんな軽い物投げてても挑発するだけだ。しかし強盗は何キ口もの  
バーベルが乗っているかのように崩れた。

「ぎぎぎあああああ！重い重い重い！折れる折れる折れる！」

演技か？それとも本気か？もし演技なら啞然とした俺を撃つてくるだろう。しかし強盗は銃を向けるどころか、銃を投げ捨てたのだ。

「たしゆけてくりえ〜…骨が痛い…」

その後強盗犯は警察に捕まり俺は犯人を捕まえた事となった。

「よお！お手柄だな！」

友人の『恵太<sup>けいた</sup>』だ。彼の話によると俺はトイレットペーパーで丸めて捕まえたなどトイレットペーパーの重力とか言って超能力者扱いになっているらしい。

授業中ノートを開こうとすると開かない。力を入れてようやく開く程度だ。ノリでも塗ってあるのかと思ひ確かめたがノリを塗った痕跡は無かった。

「ちよつとノート忘れちゃって…1ページ頂戴？」

と、隣の席から小さく話してきたのは幼馴染の『みずき』だ。みずきの分のノートを一枚 取るうとすると

「…………紙…じゃない？」

これは紙じゃない。紙じゃない他の何かだ。鉄のように硬い。だが手を離すとノートは窓から吹いた風に靡きページが捲れてゆく。

「どうしたの？早くちようだい」

「わりい…他の奴から貰ってくれ…」

と言うとみずきはおかしな奴、と呟きながら他の人からノートを一枚貰った。しかしその ノートは何の変哲も無いただの紙切れだ。1時限目が終わった直後、響はトイレの個室に駆け込み個室の力を閉めた。

「ふう…間に合ったぜ」

トイレトペーパーに手を伸ばし紙を引いた。誰かが折つたのだろうか三角折りになっている。紙をちぎったとき、なんだろうか紙が硬い。そのトイレトペーパーは銀色に輝き、それはまるで『剣』のようだった。

「なん…だよこれ…どうなっちゃまったんだ…俺…」

俺は思った。

「ケツ拭けないんじゃない？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7652g/>

---

紙の刃は鋼をも制す

2010年10月21日22時51分発行